



【神の御言葉を聞ける時が祝福です。】

本日聖書: 第二歴代誌36章11-21節/ 暗唱聖句: コリント人への手紙第一 10章11節

説教者: 鄭南哲 牧師

(Rev.Jung nam-chul)

<1.本文の背景>

今日は旧約の歴史の大切な時点にきています。今日の本文は465年間続いた南ユダ王国の最後が記録されています。これは第二列王記25章にも記録されています。まず、先ほど、読んだ本文の背景について短くまとめたいと思います。イスラエルの民が出エジプトしてカナンの地に着いて住む時から、神の預言者サムエルに王を立ててほしいと求めた時、サウル王がイスラエルの初の王になって 40年間統治しました。その後神様の恵みによってダビデが王になって同じく40年間統治しました。ダビデの子であるソロモンが第3代目の王になってまた40年間統治しました。そういうわけで、サウル、ダビデ、ソロモン王に至る120年を統一王国時代だと言います。

しかし、生きておられる神様の御前でソロモン王の偶像崇拜の罪の結果、統一王国はソロモン王が死んだ後、北イスラエルと南ユダに分裂されてしまいます。これをイスラエルの分裂王国時代だと言います。そして、この両国は混乱の連続でした。北イスラエルの場合、ほとんど神の前で悪を行っていた19人の王の中、たった7人の王だけが自分の齢の通りに生き、その以外の12人の王たちは殺害されるか、自殺するかで不幸な最後を迎えてしまいました。こんなに混乱の連続だった北イスラエル王国は紀元前722年イスラエルの最後の王だったホセアの時敵の国であったアッシリヤが攻めて来て首都だったサマリアが3年間包囲され、ついに完全に陥落（かんらく）されてしまいました。

アッシリヤは北イスラエルの多くの民たちを奴隷として捕まけて行きながら、他の国々の民族の人たちをサマリアに移住させました。こんな移住政策の裏にはイスラエル民族といろんな民族を混血（こんけつ）させ、純粋なイスラエルのユダヤ民族が結束して、反逆をくわだてないようにする意図があったわけです。これが後日混血族（こんけつぞく）サマリア人という部族を誕生させたのです。イエス様の時代このような理由でユダヤ人たちは純粋血統ではないサマリア人と関わりたがらなかったわけです。

<2. 南ユダ王国の終末>

そして、南ユダ王国は北イスラエルが滅ぼされた後、136年間も持ちました。（345年間存続：931－586 BC）。南ユダ王国はレハブアム王から始め20人の王が統治しましたが、最後の王が今日の本文に出てくるゼデキヤという王でした。

さきほど読んだ本文は南ユダ王国の終末を記録していますが、どんな王国でもその最後の敗亡の時は悲惨な場面です。ゼデキヤは21才で王になりました(第二歴代誌36:11)。ゼデキヤ王11年間王位についていましたが、彼の王位の間9年目の時、つまり、紀元前588年に強大国だったバビロンのネブカデネザルがユダを攻撃してきました(列王記第二24:10)。すでに前任者だった王たち(エホヤキムとエホヤキン)が捕虜として連れられていくほど国家的な危機に置かれていました。バビロンはたった3ヶ月間王位にいたエホヤキンを捕虜として連れて行った後、(マタヌヤ; 列王記第二24:17)を王として立たせましたが、その人がゼデキヤでした。ゼデキヤの名前はバビロン式名前ですが、これだけをみてもすでに南ユダ王国もバビロンの影響と支配のもとにおいてあったことが分ります。

ところが、このバビロンの軍隊がゼデキヤ在任 9年目にふたたびエルサレムを包囲しました。南ユダのイスラエルの民が2年間頑張って耐えましたが、これ以上耐える余力がありませんでした。日常の食品や日用品などの普及が中断され深刻な飢饉に陥ってしまいました。そういうわけで、耐えられなくなった民は城壁に穴をあけて、脱出を企ててみますが、この艱難から逃れることはできませんでした。指導者であったゼデキヤ王でさえ、ひそかに城壁の穴から逃げようとしたのですが、結局逮捕され、ついに紀元前586年エルサレムは陥落され南ユダ王国も敗亡（はいぼう）してしまいます。紀元前586年、南ユダ王国が敗亡する当時ゼデキヤ王は32才でした。

何よりも、陥落されたその時の南ユダ王国の艱難は絶頂に至ります。王の目の前でまだ10代の少年に過ぎなかった

自分の息子

たちが殺害されます。ゼデキヤ王自身は両目をえぐりだされ、青銅の足かせにつながれ、バビロンへ連れられていきました。(第二列王記25:7；**彼らはゼデキヤの子らを彼の目の前で虐殺した。王はゼデキヤの両目をえぐり出し、彼を青銅の足かせにつないで、バビロンへ連れて行った。**)つまり、幼い子供が殺されるのを見たのがゼデキヤ王が見た最後の光景でした。結局バビロンに連れられて行ったゼデキヤ王も牢屋で死にました。多くの人々がバビロンの軍隊の剣で殺されました。小さい子供と青年たち、女と男、お年寄りの方など、バビロンの攻撃には区別がありませんでした。女たちははずかしめられ、子供たちは訳も分らず殺され、病弱な人々は処刑されました。使いそうな人はみな捕虜として連れられて行きました。同じ内容の本文である第二列王記25章によると約1万人が奴隷として連れられて行きました。技術者は1千人以上、軍人だけでも7千人以上捕まえられていきました。力もなく、年老いた人だけが荒廃された祖国に残されたわけです。

エルサレムの陥落とともにソロモンの時、造られた神の聖殿は壊され、汚くなりました。聖殿の大切なものはバビロンに全部運ばれました。聖殿のあるものはお酒をつぐ杯として使われる場合もありました。

<3.原因を探して>

我々に投げられる大切な疑問はいったいなぜ神様に選ばれたイスラエルの民にこんなに悲惨な結果を招いてしまったのかです。なぜイスラエルユダの歴史にこれほどの悲劇が起こったのでしょうか？今日の聖書は単なる歴史的事実を述べたわけではありません。聖書に記録されたイスラエルの歴史は神様の御こころを示してくれる教訓であります。この点で歴史というのは説教のようなものです。歴史をとおしてその時代から始め今日の我々に伝えて下さる神様のメッセージ、この目的のためこの出来事が歴代誌の最後に記録されたのです。

結局北イスラエルと南ユダ王国の滅亡の理由は同じです。北イスラエルの王国が滅ぼされた理由については第二列王17章7-18節に記録されています。簡単に申し上げますと、一つ目は偶像崇拜のため、二つ目は神の預言者たちからの警告といましめを何度も聞いても神に立ち返り、悔い改めなかったためだと聖書は言っています。

南ユダの王国も敗亡した一番の原因もやはり民たちの偶像崇拜と不従順でした。創造主なる神以外のものに拜んではならないという神の命令はイスラエルの民に何度も繰り返し教えられて来ましたが、エジプトを出てくる時から神は救い主であり、神の救いを覚えるようにと教えられてきました。シナイ山で神様からのいましめである十戒を与えながら、“(出20:3)あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。”そして“(出20:4-5)あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。5 それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。”

おもしろい事に十戒は2人称（にんしょう）単数で使われています。つまり、“あなたは-してはならない”、つまり、この神の命令は我々、個人個人に命じる言葉であるという意味です。しかし、イスラエルの民は偶像崇拜の罪から離れなかったのです。イスラエルの民が出エジプトして、荒野を歩いて行く時、主なる神の命令はただ主だけを仕えなさいということでした。偶像崇拜をしないようにと何度も何度も教えたのに、これを守ることができなかったのです。

むしろ、ほかの神々を作り、拜み、異邦の人々の規定に従いながら悪を行いました。

この偶像崇拜が敗亡の根本的理由でした。それだけではなく、神の預言者たちの警告を無視しました(第二歴代誌36:12)。

イスラエルの民が偶像を拜み、悪を行っている時、神様は預言者たちを送って彼らに警告し、不従順から離れ、悔い改めるように強調したのですが、預言者たちの説教を侮（あなど）って、ないがしろにしたのです。神に遣わされたイザヤ、ミカ、ナフム、ゼカリヤ、ハバクク、エレミヤなどを遣わして、彼らの罪を教え、神に戻るようにとたえず教えたが、イスラエルの民は彼らをむしろのり、預言者たちの訴えを無視しました。そして、彼らをとおしてくださる神の御言葉をあざけり、預言者たちを虐待し、殺すまでしました。それはまさしく、彼らを送った神様への冒瀆ではなかったでしょうか。

本文の12節をみてください。

“彼はその神、主の目の前に悪を行ない、主のことばを告げた預言者エレミヤの前にへりくだらなかつた。”と書かれています。繰り返される教えと教訓からはずれ、審判の警告に耳を傾けませんでした。もはや神様の忍耐と赦しの段階は過ぎてしまいました。16節をみてください。“ところが、彼らは神の使者たちを笑いものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにしたので、ついに、主の激しい憤りが、その民に対して積み重ねられ、もはや、いやされることがないまでになった。”

もう南ユダ王国のイスラエル人も神様の恵みと祝福の特権からのがれてしまいました。そして、神様の裁きが始ま

ります17節をみてみてください。“主は、すべての者を彼の手に渡された。”ここで“手に渡された”という意味は文字通り、神の手からほったらかしにし、異邦の人々のされるがままにおかれた!という意味です。神様はこれ以上神様の御言葉と警告を聞かないイスラエルの民をまもってくださいませんでした。されるがままおかれました。神様が我々を無関心でされるがままに置かれる時こそが一番恐ろしい裁きの時である事を覚えましょう。まだ神から戒められ、懲らしめられる時は神の恩寵と愛がある時なのです。しかし、南ユダのイスラエルの民たちにはもうその時が過ぎてしまいました。結局、イスラエルの民はバビロンの捕虜として連れられていって70年を生きるようになったのです。

<4.今日の御言葉の教訓>

ユダ王国の敗亡に対する旧約聖書の記録が我々にはどんな意味があるのでしょうか？第一コリント10章11節によると、“これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。”

旧約聖書に記録されたイスラエルの歴史はただ過去に死んだ歴史ではなく、今を生きている我々のための神からの‘生きた教訓と警告’のためだと言っています。ですから、今日の本文もいまの我々のために与えられた御言葉であります。

罪は二つの性質があります。一つ目は習慣性です。罪を犯してもすぐ何かの警告か、審判があるわけがないため、罪を犯して、また犯してしまいます。神を恐れないで、誰も知らないんだ。私だけが知っているんだから、罪を繰り返して犯してしまうのです。

二つ目は免疫性です。罪を犯すと始めは自分が失敗したと思って良心的な信仰の呵責を感じます。しかし、これがくりかえされるにしたがって、免疫ができてしまい、罪を犯しても罪の意識がなくなります。罪は始めはお客のように訪れますが、これを退けないと友達のように親しくなります。それでも断ち切らなければ、罪は王様のように自分を治め、ついに罪の奴隷となってしまいます。

こんにち、我々は偶像を拝んではいけないと思いますが、偶像を拝んでいたイスラエルの民のように同じく習慣的罪に陥りやすいです。偶像を拝むことはないかもしれませんが、神様の御言葉を信じないで、無視し、不従順する罪を犯してはないのか自分自身をよくさぐる必要はないでしょうか。

泥棒（どろぼう）は予告なしに来て、事故も予測なしに起きる場合もありますが、神様は予告なしには動きません。一方的に懲らしめる神様ではありません。かならず、あらかじめ、教え、教訓し、警告される方です。

神様はかならず、一方的に懲らしめません。神様の預言者たちを何度も何度も送って教えて、いましめ続けました。預言者たちの涙の訴えを無視し、たえず、悪を行う時、神様は裁きを通して彼らの罪を悟らせてくださいました。親の涙もった教えを最後まで拒む子供には希望はありません。神様からの何回も繰り返される教訓と教えと戒めと警告を無視し、預言者の勧告（かんこく）と訴えをそむけた時彼らをカルデヤ人のバビロンの王に渡され懲らしめられたのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

神様は今日も神の御言葉で我々を教え、いましめ、教訓し、勧告しています。却ってこの時がまさに我々には神様の祝福の時である事を忘れないようにしましょう。神様の御言葉を侮（あなど）ってしまうと我々にはなんの望みも残りません。

我々はどうでしょうか？神様と神様の御言葉に注意深く聞き、御言葉の通りに生きているでしょうか？

神様のみを絶対的に信じて頼っているでしょうか？創造主であり、我々の救い主なる神は今も生きておられます！

神様の御言葉が聞ける時が祝福の時です。神の御言葉が聞ける今の時が我々には祝福の時なのです。今日も、そして新しい11月にも神様からの御言葉を日々自分に下さるメッセージとして聞き、謙遜にその御言葉通り従うことにより、今も生きておられ、共におられる神様の恵みと導きをさらに新しく豊かに経験される11月一ヶ月となりますよう主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！